

号外!

Union Press 埼玉大学教職員組合ニュース

平成29年10月19日発行 第5号

後期の授業が始まり、ようやく落ち着いてきました。忙しさのために、とうとう夏休みをとることができなかったという声もちらほらと聞いています。授業ないと、授業以外の雑用に追われ、授業が始まると、授業の準備、レポートの採点に追われる毎日です。

突然の衆議院解散で、10月22日は衆議院選挙です。埼玉大学でも学長選が始まっています。そこで、第5号と次号（第6号）は、学長選関連の内容を主にお届けする予定です。 【広報担当：近藤】

いつの間にか学長選

教授会で、学長選考に伴う「意向聴取実施委員会候補者」の選考が9月に行われ、学長選考が始まるのかと思っていたところ、気がつけば、学長候補者の推薦が10月2日～10月24日とすでに始まっています。

2年ほど前に学長の任期が6年になるという案件が、学長選考会議だけで審議されていることが問題であるとされ、ある教授会では、①学長選考会議だけで決めることの違法性、②4年、2年という任期は、4年目に学長の大学運営に対するチェック機能であり、任期を6年にするならば、他のチェック機能を付加する必要がある。などと議論されていました。ところが、学長候補者の選考に関する公示では、何事も無かったように学長の任期が6年と明記されています。2年前のUPを見てみますと、「学長選考会議はオープンであるべきだ！」とう見出して、このことについて書かれています。

学長の選出方法も、法人化する前は、学長選挙により公正に行われていました。ところが法人化にともない、学長選挙は、選挙ではなく「意向聴取」という結果に拘束力のないものに格下げされ、学長を決定するのは、「学長選考会議」となりました。「学長選考会議」に対して、「意向聴取」の結果を尊重することを申し出た際に、「会社の社長を選挙で選ぶようなことはない！」とうコメントが出されたことがあったよう記憶しています。会社の社長は、会社における出世の頂点ですが、学長とは、出世とは全く関係のない期間をきめて選出された代表者です。学長選もしくは意向聴取は、大学の構成メンバーが学長としての資質を判断するバロメーターであり、大学自治の要ではないでしょうか。

意向聴取は絶対必要！ 学長候補者の大学運営方針について

今回、現学長は学長候補者として推薦されることは確実だと思います。他の候補者が推薦されるかどうかはわかりません。他の推薦者が現れた場合はもちろんですが、もし現学長以外に推薦者がいなかった場合でも、チェック機能という観点で、意向聴取は行われるべきだと思います。

学長選において組合では、学長候補者がきまると、候補者に対し大学運営などに関して質問し回答を頂いています。また、学長候補者の生の声を皆さんに伝えるために、学長候補者立会演説会を開催してきました。今回も、候補者への質問状、立会演説会の開催を予定しています。今までの、候補者はすべて協力していただいていたので、今回も候補者から快諾を得られるものと思っています。

学長選に思う

学長選が公示されました。

今回の学長選、複数候補がないときは意向投票が行われないとのことです。

もしそうなったら現体制継続？ 本当にそれでいいのでしょうか。

現体制のやっていることには多々疑問があります。

例えば、

1. 「非常勤講師削減」→運営費交付金減への対応？

各学部・研究科に爪に灯を点すように削減をさせる一方、ポスター(<http://www.saitama-u.ac.jp/entrance/guide/poster/>)などの広報費(数百万円?)、学生センター設置のため施設改造費(数千万円?)など、効果の不明な費用を支出しています。

その他、数千万円の予備費計上など、支出の管理はどうなっているのでしょうか。



2. 「統合キャリアセンターSU」・「学生センター」設置→学内組織の改編新設

入口から出口まで一貫して学生に対応しますという建前で改編等が行われたようです。

しかし、入試→教育→就職と→の関係を組織化しないので連携が全くない。物理的な空間としても使い勝手が大変悪い。各学部事務室の統合という説明があったと記憶しますが元の旧各学部事務室には「壁が新たにできた」りしている分室が残ってます旧国際本部棟などは利用されず、スペースが空いたままです。

3. 学部修士6年一貫教育計画

以下の文章が埼大HPにあります。

「埼大から東大大学院に行ったことで世間が広がったというか、大きなプロジェクトに関わる機会が間違いなく増えました。……
……そこにいるからこそ、埼大に戻ってからもそのツテでネットワークに入り込んで、それなりの位置でやれますし、学生も恩恵を受けているはず。一カ所にとどまっていたらそれは絶対できないことだし、そういう意味でも流動性は重要ですね。」

http://www.saitama-u.ac.jp/news_archives/20160926-1-1.pdf

埼大で修士まで6年一貫の教育をすることどのように整合性があるのでしょうか。

4. 概算要求の変遷（教育学部入学定員減の目的）

1) 「融合科学研究科」→「融合」

「融合」による「イノベーションの創出」（シュムペーターは、イノベーションは突然発生すると言っていたと記憶しますが）との記述がありますが、「埼大に実際にある研究リソース」を検討した気配が全くありません。例えば「試験」を研究する「日本テスト学会」は統計学・心理学・教育学などの研究成果を使って試験を研究していますが、そんな発想のかけらも出てきません。何を「融合」するのかしたいのか、理解できません。

2) 「文理創世学院」→「創世」

6年一貫教育でテクノロジーマネージャー？と地域行政マネージャー？を生み出して私企業のサラリーマンや公務員にしてさらには起業家にして、すごく優秀な学生は卓越大学院へ行かせて研究者？にするような記述があります。

しかし、どこか「特別」なところがあるのでしょうか、とても「普通」のように思えます。ここでも「特別」なことをするために学内研究リソースを具体的に検討した気配がありません。

結局、研究科設置等はできなかったため、教育学部入学定員減の対応は工学部学科再編で終わりました。この再編も「大括り」のことでありますが目的が不明です。

3) 「文理融合教育」

「融合」は前記のとおり意味不明です。工学部で実施する文理融合教育を全学に展開するとのこと。 「AI、IoT、教理、データサイエンス」（これは「情報科学」？） 「社会デザインプロセス・社会イノベーション」（これは「プロジェクトサイクルマネジメント」？）などの学際横断的な科目（両方理系？）などを開設するようですが、構想そのものがあまりに抽象的なので、具体的にどのような内容の科目をどのように行うのか検討ができないのではないのでしょうか。現中期計画にも書いてありますが、低い評価くだされることが危惧されます。

以上、概算要求や中期計画において、とても「安易」に「言葉」を使っているのではないかの疑念があります。

孔子は「名正しからざれば則ち言順わず（子路第十三の三）」と言ったとされます。

「融合」「創世」「文理融合」と魂の入っていない「言葉」に説得力はありません。

埼大は東京にとっても近い（横国よりも交通の便がいい）、田舎の地方国立大学より潰しやすいと思います。

今、国立大学教員養成課程の縮小統合が言われています。近くには学芸があります。

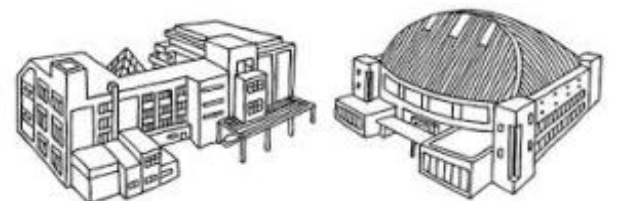
北関東の大学とひとつになれば文科省が縮小統合（命令！）を言いだしかねません。

これは教員養成課程だけではないでしょう。

現体制継続の場合、2年で執行部交代、次期計画さえともに立てられません。

残された時間は少ない、しかし学内英知を集めればきっと生き残る方法を発見できると思います。

次期学長は、学内議論を透明活発にしてくれる人、を希望します。



組合員からの投稿から



埼玉大学教職員組合 〒338-0825 さいたま市桜区下大久保 255 第2 生協 1 階
E-mail : saikyoso@gr.saitama-u.ac.jp URL : http://kumiai.client.jp
電話/FAX : 048-853-5609 (内線) 3160
組合事務室の開室時間 : 月火水木 午後 12 時～夕方 5 時

